しあわせ

12　月　号

七宝樹林くににみつ
光耀たがひにかがやけり
華・菓・枝・葉またおなじ
本願功徳聚を帰命せよ

（『浄土和讃』四〇）

浄土では七つの宝で飾られた樹々がみち、たがいに耀きあっている。一々の華やこのみ、また枝や葉もおなじである。本願によってあらゆる功徳を集められた阿弥陀仏を仰ぐべきである。（意訳）

「手を合わす母」

コロナに始まってコロナで終わるかのような一年でした。いずれ、あんなこともあったといわれるようになるに違いありません。世界中が一つことで振り回された一年というのは珍しい一年だったといえるかもしれません。

来年は？　オリンピックは？　明るい話題の多い一年であってほしいとは誰しも思うことですが、現実は誰の思うようにもなりません。

だからこそ、誰もが希望を持ち、努力する意味があるのです。誰の思うようにもならないからこそ、誰もが願いを持ち、前に向かって進んで行けるのです。それが諸行無常・諸法無我ということでしょう。

来年、東京オリンピックで、パラリンピックの選手たちが、それを見せてくれるに違いありません。

法座案内

報恩講法要

十二月十一日（金）昼席・夜席
十二日（土）昼席
講師　淺田　惠真　師
（本願寺派　勧学）

法味の会　ーご和讃の味わいー

十二月　十八日　午前十時～
お話　住職

※本堂内は二四時間換気をしておりますが、お参りの際はマスク着用をお願い致します。

府中町山田二丁目二十五十三
栢原山　龍仙寺
電話（〇八二）二八二ー四八二三

【『浄土和讃』四〇】～かがやきあう世界～

阿弥陀さまのお浄土には、金・銀・瑠璃（るり）（ラピスラズリ）・水晶・珊瑚・しゃこ（美しい貝殻）・めのう、という七つの宝でできた樹林がみちており、それらの宝の樹々は、はかりない光をもって、互いに耀きあっている。金樹（きんじゅ）の光は銀樹（ぎんじゅ）を照らし、銀樹は瑠璃樹（るりじゅ）を照らし、瑠璃樹が水晶の樹を照らし…、そのようにして互いに耀きあい、照らしあい、無限に乱反射して、はかりない光の世界となっている。また一本の樹のなかでも、金の花、銀の実、瑠璃の枝、水晶の葉などが、互いに耀きあい、照らしあい、無限の光を放っているとお経には説かれています。そして親鸞さまは、このようにお浄土の宝樹が互いに耀きあっているのは、そもそもお浄土が、すべてのものを誰一人もらすことなく覚らしめようと誓われた、阿弥陀さまの本願によって建てられているからなのだとご和讃されました。

「よく見れば なずな花咲く 垣根かな」

ふと芭蕉の句が浮かびました。春先こそ「七草」の一つとして慶ばれるなずなですが、わたしたちは普段、道ばたになずなが咲いていても足を止めません。ぺんぺん草と呼んで、庭先や畑に生えると邪魔者にすらしているでしょう。しかし、垣根に花咲くなずなが目にとび込んできたそのとき、芭蕉は世界のすべてをその風景に見出したのです。

なずなだけではありません。じつは、わたしが本当に見つめるべきもの、かけがえのない風景は、いつも目のまえにあるのではないでしょうか。かけがえがないとは、掛け代えがきかないこと、代えがきかないことです。それは今日という一日がそうであるはずであり、目にするもの、耳にする音、すべてが本来は一期一会のはずです。十六世紀のフランスの思想家モンテーニュは、次のように書き残しています。

「もしおまえが一日生きたならば、それですべてを見たことになる。その一日は、すべての日と等しいのだ。別の光も、別の闇もない。この太陽、この月、これらの星、それらの記憶は、おまえの祖先が享受したものにほかならず、おまえの子孫を楽しませるものと変わらないのだ。父親たちも別物のものを見なかったし、子孫もまた、別のものを眺めることはないだろう。」（モンテーニュ）

十六世紀のフランスでも、芭蕉が生きた十七世紀の日本でも、また現代でも、わたしたちはかけがえのないものを、代えがきくようにしか見ていないのでしょう。それは見ているのではなく、見失っているのです。だからこそ阿弥陀さまは、あらゆるものが目覚め、互いに耀きあう浄土を建てられたのでした。

先日、二歳の次女を寝かしつけていたときのことです。ゆっくりまぶたが落ちていく娘の顔を見ながら、ふと思いました。

（この子とも、いつか必ず別れていかなければならないのだなあ。いや、今日のこの子には、もう二度と会うことはできないのか…）

二度と見れないであろうその日の娘の顔を、代えのきかないその一日を、自分は見つめられているだろうか。自分はこの眼でいったい何を見ているのか。そう自問していると、「なまんだぶ」とお念仏がこぼれました。

「なんでまんまんちゃんなんかーい！」

むくっと起きあがって娘がツッコミをいれてきましたが、なまんだぶはお仏壇の前だけで称えるものだと思っているのでしょうね。

七宝樹林（しっぽうじゅりん）くににみつ
光耀（こうよう） たがひにかがやけり

お浄土は、あるかないかではありません。お浄土がなければ、ほんとうに会える世界はないのです。ともにお念仏いただきましょう。阿弥陀さまが、すべてのものが目覚め、互いに耀きあう世界を開いてくださっています。